

# 適期刈取で1等米100%をめざしましょう！

松本農業農村支援センター

## 1 今年の気象状況と生育状況

### (1) 生育状況（8月5日現在）

田植えは4月25日頃から開始され、田植え盛期は5月10～15日頃でした。降雨により耕起作業が遅れたため、平年より田植え作業は遅れました。

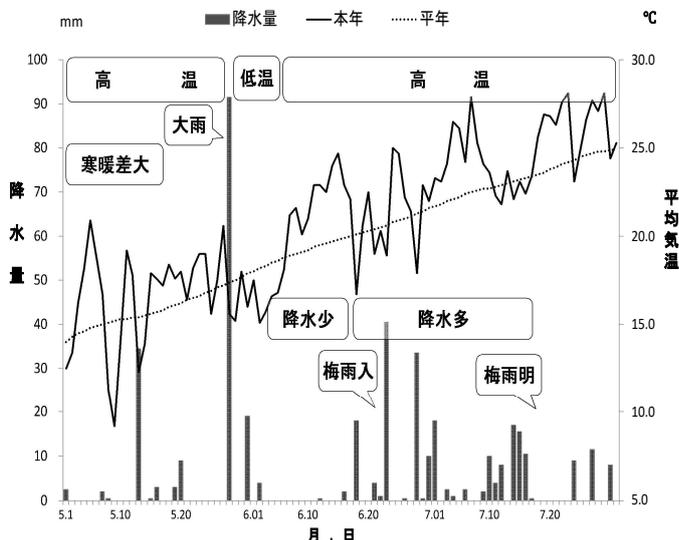
田植え後の低温や大雨による深水で、活着が遅れたり、分けつ発生が抑制された圃場もありましたが、5月下旬の田植えを除き、活着・初期生育は概ね良好でした。梅雨入りは6月21日頃(平年より14日遅)、梅雨明けは7月18日頃(平年より1日早)でした。

6月中旬以降の高温の影響で、豊科定点圃場の調査では、最高分けつ期の草丈は平年より長く、茎数も多い状況でした。また、この高温の影響で生育がかなり進み、あきたこまちの出穂期は7月21日で平年より7日早、コシヒカリの出穂期は8月1日で平年より7日早でした。

現地の平坦地では、早生品種が7月20日～7月25日頃に出穂期を迎え、コシヒカリは7月26～8月5日頃に出穂期を迎えた圃場が多い模様です。昨年同様に出穂期はかなり早まっています。

出穂が早まっていることに加え、今後も高温が予想されているため、成熟期は平年よりかなり早まると予想されます。また昨年同様高温による登熟障害が懸念されます。

令和6年 気象経過(穂高アメダス 5月1日～7月31日)



		最高分けつ期		幼穂形成期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日
		草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>			
コシヒカリ	本年	58	676	7月11日	8月1日	?
	平年	50	647	7月16日	8月8日	9月22日
	昨年	52	663	7月13日	8月2日	9月10日
	平年比	116%	104%	5日早	7日早	?
あきたこまち	本年	55	606	7月2日	7月21日	?
	平年	50	553	7月6日	7月28日	9月7日
	昨年	51	513	7月3日	7月22日	8月28日
	平年比	110%	110%	4日早	7日早	?
美山錦	本年	62	558	7月4日	7月21日	?
	平年	54	491	7月7日	7月29日	9月12日
	昨年	54	452	7月5日	7月24日	8月29日
	平年比	115%	114%	3日早	8日早	?

- (2) 1か月予報（8/3～9/2） 8月1日気象庁発表
- 気 温：高い80% 平年並10% 低い10%
- 降 水 量：多い40% 平年並30% 少い30%
- 日照時間：多い40% 平年並30% 少い30%

向こう1か月の気温は平年より高い（特に期間の前半）と予想されています。今年も高温に注意が必要な気象条件です。

近年の登熟期間は気温変動が大きいので、今後の気象情報にご注意ください（特に台風通過後の気象には要注意です）。

(3) 病害虫発生状況

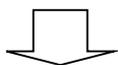
- ・いもち病：7月中旬までは発生好適条件がありましたが、その後の高温で発生は抑えられています。  
しかし、今後曇りや雨の日が続いた場合、穂いもち（特に枝梗いもち）に対して注意が必要です。  
令和3～4年のようにお盆以降に降雨が続くと要注意です。
- ・カメムシ類：7月31日付で南信及び中信地区に対して、斑点米カメムシ類に関する地区注意報が、病害虫防除所から発表されています。

## 2 出穂後の高温による品質低下について

### 【胴 割】

出穂直後から登熟前半の気温が高い場合、玄米がもろく割れやすい体質になる。出穂期から10日間の最高気温の平均が30℃以上になると発生しやすい。

今年の出穂期から10日間の最高気温の平均値は・・・



平坦地のすべての圃場で30℃以上になっており、胴割米が発生しやすい「大変危険」な状況です。

表の見方 ■の色ぬり【大変危険】：出穂期から10日間の最高気温の平均が30℃以上  
■の色ぬり【危険】：出穂期から10日間の最高気温の平均が29～30℃

注 7月31日まではアメダスの本年値。高温が予想されているため、8月1日以降は平年値にプラス1℃した値を本年値としています。

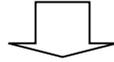
出穂期→	7月	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	8月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
	穂高	■																															
松本	■																																
松本今井	■																																
平坦地のすべての圃場で、胴割米になりやすい「大変危険」な状況です																																	

## 【白未熟】

出穂直後から登熟前半の気温が高く、日照不足、籾数過多などが重なると、デンプンの集積がうまくいかなくなって発生する。

出穂期から20日間の平均気温の平均値が26℃以上になると発生しやすい。

今年の出穂期から20日間の平均気温の平均値は・・・



平坦地のすべての圃場が24℃以上で、白未熟が発生しやすい危険な状況です（特に7月中に出穂した圃場は大変危険な状況です）。

表の見方  の色ぬり【大変危険】：出穂期から20日間の平均気温の平均が26℃以上  
 の色ぬり【危険】：出穂期から20日間の平均気温の平均が24～26℃

注 7月31日まではアメダスの本年値。高温が予想されているため、8月1日以降は平年値にプラス1℃した値を本年値としています。

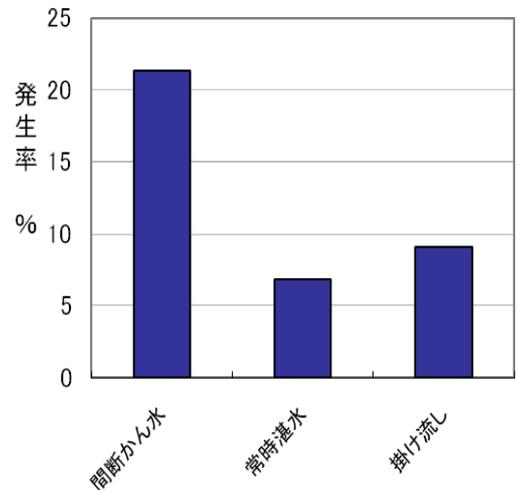
出穂期→	7月15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	8月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	
穂高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
松本	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
松本今井	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	平坦地のすべての圃場で、白未熟の発生しやすい「危険」な状況です （特に7月中に出穂した平坦地圃場は「大変危険」な状況です）																																

## 3 収穫までの圃場管理のポイント

### ①【出穂後3週間は湛水】

高温登熟による胴割米、白未熟米の発生防止のため、出穂後3週間は圃場の水を切らさない状態（少なくとも圃場にひたひた水がある状態）を保ってください。

著しい高温が続く場合、用水が十分あり、冷水による生育遅れの心配がない場合は、掛け流し（昼間～夕方4時間程度）や昼間入水等により、水温が高くなった田面水の入れ換えもご検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)

注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

## ②【早期落水は厳禁】

十分な中干しが出来なかった場合、早く落水して土を固めたい（早期から落水したい）・・・と思う場面があるかと思えます。

しかし早期落水は、**胴割米・白未熟米の発生を助長します**。今年の稲は胴割れや白未熟の発生しやすい体質になっているので、早期落水は避けて下さい。

**中干しが不十分な圃場の場合、出穂3週間以降～落水の間は、田面を保水させながら土を固める「強めの間断かん水（例：2日湛水、2日落水）」**をお願いします。

落水は、作業に支障のない範囲で極力遅くして、コシヒカリの場合は出穂30～35日後を目安に落水を始めてください。**作業優先の早期落水は避ける**ようお願いします。松本管内の土壌（砂壤土）は乾きすぎるので注意してください。

また台風等によるフェーン現象で異常高温・極端な乾燥条件になると、十分に実る前に止葉が枯れ上り、玄米が細身になったり、白未熟・胴割米の発生が助長されます（例：令和5年）。

**このような場合は、落水中でも入水（走水）**をお願いします。

## 4 早めの収穫準備と計画的な収穫作業

成熟期は「平年よりかなり早い（昨年並み）」と予想されます。

コシヒカリは、7月26～8月5日頃の短期間に出穂期を迎えた圃場が多く、**収穫適期も短期間で一気に迎える事が予想されます。**  
このため、**収穫・調製作業にゆとりがない状況になる**と思われます。

平坦地の水稻は、全般に胴割米の発生しやすい状況で、刈遅れや収穫間際の降雨で、**胴割米が多発する危険な状況**です。

このため**収穫準備をいつもより早めに進め、早期収穫をイメージした計画的な収穫で適期内に刈り取りましょう。**

### ① 刈り始め予測等の積算温度の情報を活用し、早めに刈取り準備を進めましょう

平年より高温が予想されていますので、**【平年より2℃高温】**を参考に**収穫準備を進めて**ください。

※下表は8月1日現在の松本～塩尻方面の水田のコシヒカリ（稚苗植）の水稻刈り始め予測（2℃高温版）です。

	標高	推定出穂期						刈り始め予測日（出穂期以降 平年より2℃高く推移した場合）						標高
		田植日						田植日						
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	
コシヒカリ 稚苗	750m	8月2日	8月4日	8月6日	8月8日	8月11日	8月14日	9月7日	9月10日	9月12日	9月15日	9月19日	9月23日	750m
	700m	7月31日	8月2日	8月4日	8月6日	8月9日	8月12日	9月4日	9月7日	9月9日	9月12日	9月15日	9月19日	700m
	650m	7月30日	8月1日	8月2日	8月5日	8月8日	8月11日	9月3日	9月5日	9月6日	9月10日	9月14日	9月17日	650m
	600m	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日	8月6日	8月9日	8月31日	9月2日	9月4日	9月7日	9月10日	9月14日	600m
	550m	7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月4日	8月7日	8月28日	8月30日	9月2日	9月4日	9月7日	9月11日	550m

安曇野～筑北方面の水田や他の品種・苗質・標高・田植日については、別添の水稻刈り始め予測（2℃高温版）をご覧ください。

水稻刈り始め予測は松本農業農村支援センター技術経営系のホームページで随時更新していますので、最新版をご利用下さい（下のQRコードからもホームページに進めます）。



② ほ場で帯緑色籾歩合を確認し、帯緑色籾歩合が10%になったら刈り取りを始め、適期内に刈りきりましょう

高温下で登熟が進むと、茎葉の黄化が進まないまま、籾の黄化が進んで、刈り遅れになることがあります。

茎葉の黄化に惑わされず、必ず籾の状況を確認して、収穫を開始し、適期内に刈りきるようお願いいたします。

帯緑色籾歩合の見方については、適期刈り取りチャート（支援センターのホームページにも掲載しています）をご利用ください。

コシヒカリの帯緑色籾歩合と登熟積算温度の関係

区分	登熟後半			刈取始め	成熟期	刈取晩限	刈り遅れ
	40%	30%	20%	理想的な刈取期間	5%		
帯緑色籾歩合	40%	30%	20%	10%	5%	2%	0%
成熟期前後日数	, -15日	, -12日	, -10日	, -5日	, 0日	, +4日	, +8日
積算温度			800~ 850℃	900~ 950℃	950~ 1000℃	1050~ 1100℃	1200℃

「帯緑色籾歩合」による収穫時期の判定

「帯緑色籾歩合」とは、緑色の籾が1穂内に占める割合のことであり、水稻の成熟程度を示す目安です。

胴割米は、帯緑色籾歩合5%以下になると発生し始め、2%を切ると急激に多くなります。このため、胴割米の発生を回避し、安定的に収量を得るためには、帯緑色籾歩合10%(図参照)になった時期から収穫を始め、2%になるまでに収穫を終えることが必要です。

帯緑色籾歩合10%以下であれば収量の減少はありません。



黒色が緑色の粒  
図：帯緑色籾歩合10%

●帯緑色籾歩合の調査方法

①中庸な5~10株の上位2穂を採取し、直ちに全籾数と帯緑色籾を調査し、全籾数に対する帯緑色籾の割合を算出します。

(1穂中の全籾数は概ね100粒程度であるため、帯緑色籾の数をそのまま帯緑色籾歩合としてもよい)

②葉緑素がわずかでも残っている籾は帯緑色籾とします。

③不稔籾は調査から除外します。

【参考：帯緑色籾歩合と成熟期の関係】

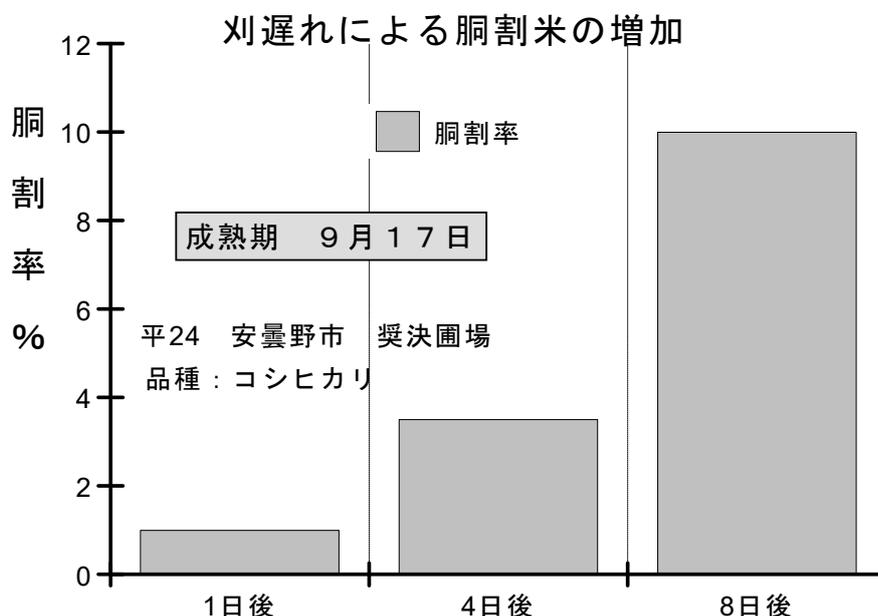
区分	登熟後半	刈り取り始め	成熟期	刈り取り晩限	刈り遅れ
		理想的な刈り取り時期			
帯緑色籾歩合目安	20%	10%	5%	2%	0%

### ③ 刈遅れは厳禁 早期収穫をイメージして刈取を進めましょう

今年は胴割米が発生しやすい状況になると思われます。

刈遅れや収穫間際の降雨で、胴割米が多発する「危険」な状況なので刈遅れは厳禁です。

このため、早期収穫をイメージした計画的な収穫をお願いします。



### ④ 籾水分に注意して、適切な乾燥調製をお願いします

刈り始めや降雨後の収穫の場合は籾水分が高く、急速な乾燥を行うと、胴割米が多発する恐れがあります。

特に刈始めの乾燥調製作業は、籾水分にご注意ください！

「はぜ架け」でも、高温の場合はかなり乾燥が早まります。  
「はぜ架け3～5日後」に一度水分を確認し、過乾燥にならないように脱穀してください。